

秋深き 隣(となり)は何を するぞ

松尾芭蕉



14 協調性のないひつじ

## 【模擬テストの校正漏れについて】

いきなりですが、以下のような、国語の模擬テストの問題で校正漏れをしてしまいました。さて、校正漏れはどこでしょうか？

次の□にあてはまる漢字をあとから一つ選び、( )内の意味をもつ慣用句を完成させなさい。

・□を長くする。(実現することを期待しながら待つ様子)

ア 手

イ 鼻

ウ 首

エ 舌

正解 ウ

校正漏れの箇所は、『問題文を「( )内の意味をもつ慣用句になるように、次の□にあてはまる漢字をあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。』にする。』です。特に、なんてことはない、よくある指摘です。「学術的に間違っている」、「問題が解けない」、「正答が間違っている」などの校正漏れに比べたら、些細なミスに感じるかもしれません。しかし、実はこの校正漏れでクライアントに大迷惑をかけてしまいました。

解答欄に、「首」と記入した生徒がいたのです。確かに、修正前の問題文では、「□にあてはまる漢字」を答えるので、「首」と記入したくなります。解答欄も、漢字一つを記入できるスペースがあります。

もし、これが模擬テストでなければ、大した校正漏れにはなりません。問題集や参考書であれば、「ウは「首」だから正解だね。」で済みます。なぜなら、これらの教材では「首を長くする。」という慣用句を覚えることが目的だからです。しかし、模擬テストは、採点をして学力を測ることが目的なのです。

模擬テストの記号問題には、通常、採点基準がありません。よって、「首」と記入されたものを、ある採点者は○、ある採点者は×とつけ、採点にブレが出てしまいました。一斉テストでしたら、採点にブレのあった問題を再採点しますが、このテストは順次テストで、このミスが発覚したのは終盤でした。既に採点の集計データが出ている会場もあったため、この問題は無効とする措置を取らざるを得ませんでした。結果的に、「首を長くする。」を知っている生徒の学力を公平に測ることが出来ないテストになってしまったのです。

今回は、模擬テストでの致命的な校正漏れの例でしたが、塾用/学校/書店売り、参考書/問題集/書き込みノートなど、それぞれで致命的であるポイントは違うのですね。うーん。教材の校正作業は深い…。日々、勉強です。

### 業務連絡

毎月末には請求書のご提出をお忘れなようよろしくお願いいたします。



今年の夏、アられ'sの玄関横で、フウセンカズラの鉢植えを育てました(提供者のMさん、お盆に水やりしてくれたOさん、ありがとう)。猛暑にも、台風にも見事耐えて、9月には白いハート模様のついた種が収穫?できました。毎日成長を眺めていたので、枯れてしなだれた姿をみると切なくなる、今日この頃です。



文責：沈黙のひつじ